



昭和三十八年度 総合文化祭開催要項

一、趣旨
東郷村文化の向上と産業の発展のため毎年続けてきた文化祭も各種団体並びに一般村民の協力により、その内容も充実し益々成果を挙げている。本年度は更に広く一般の参加を求め、より文化行事を実施して村民に発表と鑑賞の機会を与えるとともに相互の融和親睦をはかり、一般と郷土の発展に努めるため総合文化祭を開催する。

二、主催
東郷村 東郷村教育委員会
三、期日
昭和38年12月7日8日
四、会場
東郷小学校 東郷中学校
五、実施方法及び内容
総合文化祭は部落文化祭と中央文化祭に分けて実施する。

(1)中央文化祭
A 展示 展示は部落文化祭における優秀な展示品と中央文化祭の展示品を併せて行う。
学芸品展、村勢郷土展、農協展、農産品展、林産品展、特産品展、衛生展、生花展、畜産展、婦人室
B 実演及び相談、実演は農機具その他、相談は育児相談、家族計画、健康相談
C 競技大会、小学児童フットボール、珠算競技、中学生ロードレース、青年駅伝
一般パレール
(2)部落文化祭 部落文化祭は中央文化祭に準じて行い

11月3日の村民排球大会寸景



上は男子チームの優勝をかけた熱戦。中は女子チームの優勝をかけた熱戦。下は応援の村人たち

先進地視察報告書(1)

東郷村議会産業経済部委員長 松原千三郎

(1)羽茂町農業構造改善について
佐渡は、おきき節と佐土情話で余りにも有名な所であるが、それに加えて最近めきめき名声を高めて来たおきき柿で成功しているところがこの羽茂町である。羽茂町の面積は52平方キロで東西5.4キロ、南北8.5キロに11の大字部落を有しており戸数約一、一〇〇人口七、五〇〇人、うち農家数九七三戸、田六七五町

町では柿が産地化の条件として有利なという観点から平無核柿(八珍柿)の奨励にふみきったことに始まる。柿を撰んだ理由としては、先に列挙した基礎調査に依り柿が最も適地であったとの確信を得た市場への進出に良質、量質、集団化が条件とされた。そこで昭和七年八珍柿の先進地、鶴岡市から高接更新用の穂木一五、〇〇〇本、苗木二、〇〇〇本を導入して村内で四十五名の接木技術者を育成し全村一斉更新を行なった。同年羽茂町が農林省不況対策の第一回農林省経済更生指定村に選ばれたので、柿の増植を村の経済更生五年計画の中に織り込んだことと云われる。当時の農村振興対策も今日の農業構造改善事業と似たものであった。後年次計画に従って継続的に増植が進められた結果、早くも昭和十一年六五〇箱(一箱二三、五〇kg)十トン(一箱二三、五〇kg)十トン(一箱二三、五〇kg)と増加した。北海道札幌市場へ初出荷されたのである。

Table with 2 columns: 昭和37年度柿園面積及び生産量, 増植計画及び見込生産量. Includes data for area and production from 1938 to 1950.

高、今日も市場調査、先進地視察並びに流通機構の整備生産体制の強化等により、漸時おきき柿の名声は高まり将来の見通しに立つて施設の共同化、機械化に前進し、本年度遂にマンモス撰果場の完成を為し遂に羽茂町としては絶対不退転の体制を築き上げたのである。

私の考えた、いのしし退治法

福瀬 中田 実

稲が稔り、からいもが肥り始めると山のギャングの活躍が始まります。私も山田が多いために毎年一ヶ月位は獲るの番や柵を作ったりして山の無法者から米を護るに苦闘して来ましたが世の中が進んで来ると山の動物まで智慧がつくのか、今までやって来たオドシ材料では役に立たず、手を上げることもしげしげでした。こうしたことで毎日のしに泣かされて来た山田が今年はこのギャング退治に、子供が使う火薬玉を利用したのでお役に立てばと思つて発表する次第です。火薬玉というのは、「フラッシュフラッカ」という商品名で売られている花火

一分間の面会

汽車がころもち速度を緩めたかと思つた瞬間、窓を覗いて用意の白ハンカチを差出して試みに一寸振つてみた。
岐阜駅で急行列車が一分間停車するというので、就中出の娘が果たして大垣市から岐阜駅迄出て来る勇気があつたかどうだろうか。愈々汽車は駅へ近づいて来た。ハンカチを電報で連絡して置いた通りに一杯振つた。それにしても朝早い精が案外乗降客の少ないのは有難い。
研修旅行で上京中の四名の連れの者も席を並べて座っていたが彼等までソワソワして遂には一斉に立上るとわたしに重なり、窓から顔を出した。

点滴

十一月は文化の月であり農村では村祭りの月でもある。
一部屋長さんからの土産

「アッ居た、居た、龍子が居たッ」
私の顔を見た瞬間、サッと表情がくづれた。グッと熱いものがこみ上げて、さつさつと斯うも云おう、あの事も伝えようと思つた事もなく、もう駄目だ。声が出なくなつてしまつた。
それにしてもよく来て呉れたと感心したが、それもその筈だ。チャンと社の方で同様の川口さんと夫々土産まで持つて娘について来て下さつて居るんだもの。美濃織維工場才だ。本当に有難い!!
心で手を合わせつゝ一分間の時の流れを惜しむつゝ、妻の心算した票を娘に手早く渡す。喰い入るやうに心詰める眼と眼!私は娘が心もち肥えているのを見て始めてホツとする。

環境の中から見出し、それを皆で育て上げるものである。その地域住民の求める心を育てる情熱その度合の高きによって成否を決定付けているのであると達観しておられたが、大いに味うべき言葉であると思つた次第である。(次号へつづく)

よ」
涙声で小包を渡す娘の顔は、もうグチャグチャに濡れて、言葉も聞きとれぬ位細い。連れの村議員達が「頑張りなさい」と口々に娘を激励して下さる。
「早くお父さんと握手しなさい。」
社員から気を配って戴くが云われて益々大粒の涙をボロボロ落し乍ら汽車の陰にソッと隠れようとする気の弱い田舎娘である。
「御免よ、まだ幼い身空だもの、さぞかし帰りたいたいのよネ」
故郷の匂いを一杯かぎたいであろうに許して呉れ、時間は一瞬間だ。この道を選んだのはお前でもあつたから、苦しいだろうが他の娘さん達も皆同じ道を通つたのだよ。
頑張らなくちゃあネ!!
頭を下げながら黙つて向い合つて立っている親と子……
眼鏡の球に涙が一杯溜つても、変らぬ尊厳心である。もしこの心を世の人達が失つたならば、世は末世となり、われわれの生活はまことに味気ないものになるであらう。